平成 26 年度　アーツコミッション・ヨコハマ事業報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

＜平成 26 年度　総括＞

東アジア文化都市横浜 2014、横浜トリエンナーレ開催年という節目において、創造都市に 8 年間関わる継続的事業として、これまでの経験を創造都市推進の原動力となる様々な組織及び団体・拠点等と連携に活かし、創造の担い手たちのネットワークを推進し、その活動をサポートしました。

1. 相談件数が前年比 109%。企業の作品購入も支援。

横浜に集うアーティストやクリエーター・NPO・市民・企業・学校など様々な創造活動を繰り広げる人たち(創造の担い手)の相談 150 件(前年比 8.6%増)を受けています。

顕著な成果として、企業が横浜出身のアーティストの作品購入する際のコーディネートを ACY としてするなどがあげられます。

2. ドックヤードガーデン活用事業「BUKATSUDO」のオープン

ドックヤードガーデン活用事業は、「BUKATSUDO」が6月にプレ・オープン、10 月にグランドオープンし、多くのメディアに取り上げられ「創造都市」が発信されました。みなとみらい 21 地区の就業者・住民・来街者が「創造都市横浜」を知るきっかけとなり、関内・関外地区に展開されている「創造都市横浜」のエッセンスがみなとみらい地区に繋がりました。横浜市全体の創造産業振興に寄与するよう、パートナーである横浜市・三菱地所そして活用事業者である㈱リビタ社との連携が具体的に形になった 1 年でした。

3. WEB マガジン「創造都市横浜」のアクセス、FB いいね！数、twitter フォロー数が大幅に増加

媒体名	H25 数量	H26 数量	前年比
創造都市横浜アクセス数	1,555,143	**1,803,316**	**116%**
Facebook いいね数	10,208	**20,879**	**200%**
twitter フォロワー数	5,430	**6,367**	**117%**

4. アーティスト・クリエーターのための事務所等開設支援助成　中期 4 か年計画目標数値を上回る。

制度変更 1 期目の運用でした。18 件申請、13 件が採択されました。昨年度申請 6 件、採択 5 件から大幅増でした。横浜市中期 4 か年計画の目標数値 10 件も上回り、制度変更による一定の成果をあげています。

5. 創造都市のための創造活動助成採択のアーティストが海外公演へ

採択された中から「悪魔のしるし」は、横浜に加え京都、スイス公演が決定し、その後公演を行っています。また、「岡崎芸術座」も次年度の海外公演の期待が出ています。
いずれの劇団の主宰も、横浜を舞台に作品を発表し続けている作家であり、今後のますますの発展が期待されます。

6. TPAM in YOKOHAMA　41 か国 183 名の海外ゲストが参加

TPAM は、20 年間実施されているアジアで最古の舞台芸術の国際的なプラットフォームです。市、国、県をまたいだ支援体制により、横浜をハブとしたアジアの舞台芸術のネットワークが構築されつつあります。国からの予算も大幅に増え、横浜市に移転してから 5 回目にして定着と今後の発展を期待させました。海外ゲストも昨年 32 カ国(146 名)から増えています。

7. デザイナー×地元企業の商品がヒット

「デザイナー×地元企業」について、平成 25 年度に制作された商品が、横浜トリエンナーレのグッズ売り場を皮切りに売り出されました。新聞や WEB 各社に取り上げられ、販売場所も市内 20 数か所を数え、大手小売店でも販売されました。メーカーの予想を大きく上回るヒット商品も生まれました。
(例：横浜ドロップは、平成 26 年 8 月～27 年 3 月まで約 7,000 個の販売実績)

1 相談業務

創造都市政策や横浜での活動についてのご相談を事前予約制で常時お受けしています。どなたでも利用できる窓口で、アーティストの創作活動の支援から、政策研究者の支援、企業や行政へクリエーターやアーティストを紹介することまで、多岐にわたり直接、間接的な支援をしています。

平成 26 年度は、150 件の相談を受けました。その中で、民間企業、行政からのデザイナー等を紹介して欲しいという要望が昨年に引き続きあります。企業とのコーディネートの成果として、作家の作品購入、文化施設との街コン企画などの成果をあげています。また行政のポスター等の製作にあたって多くのアーティスト・デザイナーの紹介を行いました。

＜平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月までの取りまとめ＞　総数 150 件

内容		相手方	
企画	42	アート系	55
拠点形成	32	創造産業	28
助成	20	行政	26
視察	16	企業	20
マッチング	15	大学	14
調査	11	市民団体	5
広報	8	オーナー	2
その他	6		
合計	150		150

2 創造活動支援

(1)創造都市横浜における創造的活動支援助成

交付総額　9,800,000 円　　交付件数 13 件(申請数 74 件)
審査員：　久野敦子氏(公益財団法人セゾン文化財団　プログラム・ディレクター)
　　住吉智恵氏(アートライター)
　　若林朋子氏(横浜市創造界隈形成推進委員会)
　　伊藤有壱氏(東京芸術大学大学院映像研究科アニメーション学科教授)
　　中川克志氏(横浜国立大学都市イノベーション研究院　准教授)
審査会　　平成 26 年 5 月 20 日

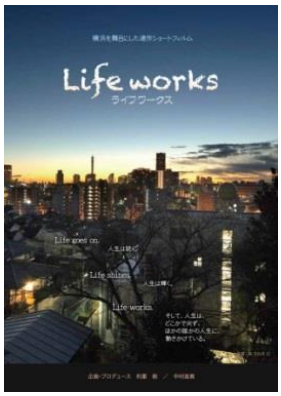
2014 年(平成 26 年度)は、昨年度までの活動支援のための助成 3 制度を一本化し、「創造都市横浜における創造的活動支援助成」として募集を行ないました。創造性をキーワードに、芸術や産業、まちづくりなど創造性を生かす多様な活動を、ジャンルによって区別することなく広く創造都市横浜の振興に寄与する活動の集積を募り支援する意図があります。

2013 年度の人人 FILMS 中村高寛氏によるドキュメンタリー映画制作への助成交付をきっかけに、映画製作や映画祭など「映画」に対する支援が多い年となりました(映画製作3件、映画祭開催 1 件)。横浜はかつて映画産業が盛んであった歴史が今も生きており、シネマ ジャック&ベティなど、少ないながらもミニシアターが精力的な活動を続けており、若手映画作家のサポー

ターともなっています。また、横浜シネマリンなど新たに営業を開始するミニシアターや、八〇〇中心に複数の映画人が事務所を構えるなど映画人同士の結びつきも多く、みなと映画祭、横浜中華街映画祭など、協力しながら盛り上げる試みを行っています。東京藝術大学大学院映像研究科という教育機関もあります。当初は東京都内で上映されていた学生制作作品も、東京上映を経て、上述の市内ミニシアターでの上映に至る協力体制がうまれつつあるとのことです。

①有限会社大丈夫

連作ショートフィルム「Life works（ライフワークス）」



横浜を舞台に、横浜の街で日々を生きる普通の人々の人生の一瞬を切り取る人間ドラマを、5～15 分のショートフィルムとして年間 12 本制作。制作した作品は、横浜の映画館（シネマ・ジャック＆ベティ）で本編上映の前に無料上映を行いました。年間を通しての企画であり、月替わりで新作に替わっていく取り組みを実施しています。

2014 年 10 月 11 日、12 日（横浜みなと映画祭にて 1 話から 4 話上映）
2014 年 12 月 27 日より本編のおまけ上映開始
会　場：シネマ・ジャック＆ベティ、横浜シネマリン
助成額：100 万円

②冨士山アネット

FujiyamaAnnette×Dance Theatre 4P

国際共同制作[The Absence of the City Project]

身体で伝える演劇を目指し、言葉のみに頼らない、新たなコミュニケーションを提示する舞台作品を制作。韓国を拠点とする「Dance Theatre 4P」との国際共同制作で行われるダンス的演劇作品であり、この企画によってお互いの国の国際交流を図り、アジアの新しい表現を国際的に紹介していける作品となることを目的としています。2015 年 2 月に開催された TPAM in 横浜の参加作品として、横浜を皮切りに世界へ発信させていく試みでありました。

2015 年 2 月 12 日～15 日　会　場：横浜にぎわい座・のげシャーレ
助成額：100 万円
TPAM2015　TPAM ショーケース参加

③EYES FILMS 有限責任事業組合

Out There／YOKOHAMA（映画『Out There』の公開制作および上映）

台湾と日本にゆかりを持つ外国人青年を主人公として、彼が暮らした横浜と台湾という場所を舞台としながら、その土地で関係した様々な人々を彼のまなざしを通して見つめつつ、2 つの国と土地にまつわる「歴史」、そしてそこに彷徨う現代的な個人の姿を描こうとする映画作品です。映画撮影の主な舞台となる横浜を中心に、一般の参加者を交えて公開制作および撮影を行い、実際の完成作品の一部として構成していきました。

公開制作：2014 年 11 月 9 日　作品完成上映会：2015 年 3 月 28 日　会場：blanclass
助成額：100 万円

④合同会社映像グループローポジション

音声ガイドをめぐるドキュメンタリー映画「Cinema with Blind」(仮題)の製作

視覚障がいの人でも映画を楽しめるよう作られた「音声ガイド」を通して、「視覚に障がいを持つ人々が見る映画の世界」を見つめることを目的に、『映画とはなにか』という問いを持った映画作品を製作。ジャック＆ベティやヨコハマらいぶシネマにて音声ガイドを用いた上映の様子を撮影するなどして製作しています。

撮影期間:2014 年 2 月～2015 年 2 月　編集期間:2015 年 3 月～2015 年 9 月　公開予定:2016 年 2 月
撮影場所:シネマ･ジャック&ベティ及び横浜市内各所、東京都内
編集場所:映像グループローポジション
上映場所:シネマ･ジャック&ベティ及び全国各地のミニシアター(目標 30 か所)その他自主上映会)
助成額:100 万円

⑤岡崎藝術座

＋51 アビアシオン, サンボルハ

劇作･演出共に神里雄大が行う新作の横浜公演。戯曲は、南米、米国での滞在取材を行い、その期間に神里が体験したことをもとに執筆を行った。演出は、既存の方法ではなく、シアター形式の再考や、個性のある俳優の起用など、より自由な発想での創作に取り組んだ。

2015 年 2 月 13 日～20 日　　会　場:ST スポット
助成額:100 万円
TPAM2015　TPAM ショーケース参加

⑥MATSURI CROSSING プロジェクト実行委員会

MATSURI CROSSING プロジェクト

「越境する音遊び･カラダ遊びの祭典」をテーマとして、韓国の伝統打楽器奏者および日本の民俗芸能、多ジャンルのミュージシャンが横浜に一同に集まり、互いの音楽と身体表現を共有･交換しながら、音楽作品の共同制作と公演を行った。多文化が出会う地である横浜らしい芸能の祭典を作り出すことを目的としている。

2015 年 2 月 21 日、22 日
会　場:横浜にぎわい座　小ホール「のげシャーレ」
助成額:100 万円

⑦株式会社エデュイットジャパン　シネマ･ジャック＆ベティ

第 3 回　横浜中華街映画祭 2014

2012 年の日中国交正常化 40 周年の年に第 1 回、2013 年の横浜市･上海市友好都市提携 40 周年を迎えたのを機に第 2 回を企画した、日中の映画祭の第 3 弾。日本･香港･台湾映画を上映するのに、日本で一番ふさわしい場所「横浜中華街」で映画祭を行い、食のイメージが強い「横浜中華街」を、中国圏の文化の発信地、また映像文化都市横浜というイメージでのブランディングを試みた。

2014 年 9 月 20 日、21 日、27 日、28 日、10 月 1 日、4 日、5 日、10 日
会　場:中華菜館　同發新館ホール
助成額:80 万円

⑧悪魔のしるし

わが父、ジャコメッティ

芸術家ジャコメッティと、彼の肖像画のモデルとなった矢内原伊作との対話記録を原案とし、父と子、すなわち演出家である危口統之と、その父、齢 70 を越えた洋画家である木口敬三の関係、そして、様々な二項対立が重ね合わされた作品を制作。10 月の公演に向けて、6 月に試演会の上演を行い、観客からのフィードバックを含めたヒアリングを行いました。本公演は、横浜から京都、スイスへとツアーしました。

2014 年 6 月 26 日、10 月 11 日～13 日
会　場:KAAT 神奈川芸術劇場
助成額:70 万円

⑨裏横浜地域活性化プロジェクト urayokonet 委員会

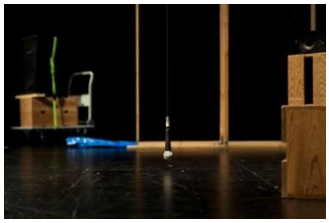
若手クリエイターと飲食店による裏横浜魅力発見・発信事業

裏横浜地域の活性化のために、サラリーマンや OL をターゲットとしたグルメスタンプラリーを実施。また、若手クリエーターの作品発表の機会創出のため、若手クリエーターと協働し、プロモーションサインの作成、マップ、情報誌、ウェブサイトの作成を行いました。

2014 年 9 月 1 日～10 月 31 日　　会　場:裏横浜地域一帯
助成額:70 万円

⑩荒木　優光

荒木　優光・音響上演『パブリックアドレス―音場 2』横浜公演



今まで、多数の舞台作品や映像作品に音響・音楽提供を行うとともに、体験としての音の在り方、リスニング環境の演出も含めた音響作品の制作を行ってきました。今回は、「聴覚体験の新たな発見」と「上演芸術の拡張」を目的とし、音響・視覚の側面から一つの世界認識の提示を試みた。視覚障がいを持つ方へ取材を行い、録音した日常の記録音で制作した音をもとに、複数台のスピーカーによる上演を行いました。

2014 年 10 月 10 日、11 日　　会　場:ST スポット
助成額:60 万円

⑪今津　雅晴

ヨコハマ・フェリーニ

サーカスや大道芸の世界が随所にちりばめられたフェデリコ・フェリーニ監督の映画芸術をモチーフに、野毛のチンドン屋や大道芸人を巻き込んだダンスパフォーマンスを展開。横浜の街並みと都市文化がもつ歴史的背景や情緒と、フェリーニ映画のもつ普遍的なペーソスを対峙させることにより、大衆芸能を媒介とした人間性を再発見する試みを行いました。

2014 年 10 月 11 日～13 日　　会　場:シネマ・ジャック＆ベティ
助成額:45 万円

⑫森川　正信

よこはまの食、地産地消を楽しむ“創造キッチン”　LOCAL FIRST WAGON

横浜で創業 70 年の仕出し弁当屋の横濱うお時と、mass×mass 関内フューチャーセンターのコラボレーションプログラムである「まちなか食堂」の利用者に、「よこはまの地産地消」をもっと身近に感じてもらうため、横浜の農業を様々な側面からアピールするための展示や、実際に野菜に触れて土を感じるショーケース機能、案内チラシのスペースをデザインすることを行いました。

2015 年 2 月 16 日運用開始
会　場：mass×mass 関内フューチャーセンター前、みなとみらい線日本大通り駅改札前等
助成額：40 万円

⑬FEI ART MUSEUM YOKOHAMA

アニマルマニア展

様々な動物をモチーフにした、若手作家からベテラン作家までの彫刻、絵画作品を一堂に展示。夏休みの期間中に実施し、親子向けの展覧会でもあります。説明パネルの展示やカジュアルで楽しげなレイアウトにすることにより、美術館（ギャラリー）を親しみやすく、気軽に楽しめるものであることを体感してもらうことを目的としています。期間中に作家によるワークショップも開催。

2014 年 8 月 19 日～31 日　　会　場：FEI ART MUSEUM YOKOHAMA
助成額：15 万円

（２）国際舞台芸術ミーティング in 横浜（TPAM in Yokohama 2015）

TPAM は、今年で開催から<u>20 年目を迎えるアジアで最も古い国際的な舞台芸術のプラットフォーム</u>です。

同時代の舞台芸術に関わるプロフェッショナルが国や地域を超えて出会い、公演、ディスカッション、ミーティングなど多彩なプログラムを通して情報交換、相互学習、ネットワーキングを 9 日間行いました。

今回より TPAM はアジアの中のプラットフォームのひとつとして長年の懸案であった<u>アジアのネットワークづくりに本格的に取り組み始めました。</u>今までのプログラムに加えて、今回からは、TPAM ディレクションが国際的にも展開する他、アジア域を軸とした近い将来に向けての共同製作（コプロダクション）のためのプログラムが加わっています。既にアジアの中で生まれている新しい潮流。その中でそれぞれの立場、それぞれの場所で活躍している人々にとってのキーパーソンの再発見、再確認をすることで、より豊かな国際ネットワークづくりに貢献しました。

PARC（国際舞台芸術交流センター）を事務局に、当財団、国際交流基金、公益財団法人神奈川芸術文化財団の 4 者から成る実行委員会が主催となり、組織の垣根を越え、都心臨海部の創造界隈を中心に多様な文化施設が一丸となって開催にあたっています。

今年度も昨年に引き続きコンベンションとして、各拠点を結ぶバスや横断幕、ケータリング、英文詳細地図、バイリンガルの徹底などおもてなしにも力を入れました。

会期：2015 年 2 月 7 日(土)～15 日(日)
主催：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2014 実行委員会
（国際交流基金、公益財団法人神奈川芸術文化財団、
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC - 国際舞台芸術交流センター）

総来場者数累計：14,200 名
来日ディレクター：海外 41 カ国から 183 名

■プログラム
＜公演プログラム＞
〇TPAM ディレクション：12 演目 23 公演
〇TPAM コプロダクション：3 演目 5 公演＋６セッション＋２展示
〇TPAM ショーケース：35 団体 143 公演

今年からアジア・フォーカスとして、次の内容をリニューアル、
横浜にてアジアにおける舞台芸術プラットフォーム形成という意図を明確化

①主催、共催公演（TPAM ディレクション、TPAM コプロダクション）
全体の 3 分の 2 を占める 11 演目がアジアのアーティストによる作品
②アジアのプレゼンターによるトークセッション
ーアーティスト・プレゼンテーション：5 セッション
ーグループミーティング（TPAM エクスチェンジ）：17 セッション
ー舞台芸術 AIR ミーティング：2 セッション

結果、アジアからの参加者数が増加

地域	国数	参加者数	国名
東アジア	4 か国	27 名	韓国、中国、香港、台湾
南アジア	2 か国	7 名	インド、ネパール
東南アジア	10 か国	59 名	ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ヴェトナム
西アジア	2 か国	2 名	イスラエル、イラン
オセアニア	1 か国	8 名	オーストラリア

＜ネットワーキング・プログラム＞
海外から約 180 名、国内から約 460 名の舞台芸術関係者が参加する、TPAM ならではのプロフェッショナルのためのプログラム。情報の共有・更新、ディスカッション、ミーティングの場が用意されています。
＊ＡＣＹ相談担当が、上記の２つのネットワーキングプログラムに参加。計 30 組のアーティスト、ディレクターの相談にのり、助成制度等の説明を行いました。

3　創造まちづくり支援

（1）アーティスト、クリエーターのための事務所等開設支援助成

応募総数：18 件（前期 12 件、後期 6 件）
採択　　：13 件、採択金額：3,994,000 円
審査員：田中陽明（Co-lab 主宰）
　　井手美由樹（IDEC 女性起業家支援チーム）
　　白坂由里（美術ライター）
審査会：上期 8 月 26 日、下期 1 月 22 日

交付先	分野	金額
ミスマッチジャパン株式会社	ファッション企画	369,000
有限会社スタジオニブロール	ﾌｧｯｼｮﾝ、ｱｰﾄﾃﾞｨﾚｸｼｮﾝ	500,000
齊藤　真菜	編集、ライター	111,000
ラファエル　リマ　イトウ	美術	136,000
加藤　甫	写真	124,000
加藤　直樹	建築、インテリア	266,000
原崎　寛明	建築、インテリア	266,000
鎌田　友介	美術	297,000
劉　功真	プロダクト設計、製作	297,000
六反　征吾	美術	480,000
株式会社シー・スリー・コーポレーション	デザイン	500,000
阿部　未奈子	美術	324,000
株式会社ファーストブレイク	写真	324,000
	合計	3,994,000

（2）芸術不動産リノベーション助成

応募総数：2 件
採択　　：2 件　採択金額：14,866,000
審査員　：竹内昌義（建築家）、林充之（税理士）、野田恒雄（横浜市都市デザイン室）
　　松井美鈴（当財団グループ長）、伊藤有壱（東京藝術大学教授／1 回目のみ）、
　　田中あづさ（コピーライター／2 回目のみ）

交付先	内容	金額
有限会社横浜シネマリン	映像系作家等への活動の場の提供 同拠点を通じた街の活性化	9,628,000
株式会社泰有社	ビル再生によるシェアオフィスの開設 同拠点を通じた街の活性化	5,238,000
	合計	14,866,000

（３）関内外ＯＰＥＮ！6

　都心臨海部の空き物件にアーティストやクリエーターを誘致し、集積した成果を　一般市民の方へ公開するイベントです。今年で 6 回目を迎える本イベントのプログラムは、アーティストやクリエーターが自らの仕事場を期間限定で一般公開する「オープンスタジオ」、「スタジオ見学ツアー」、デザイナーによるプレゼンテーション大会「デザインピッチ」、参加スタジオのポートフォリオを揃えた展示、参加スタジオ主催の各種イベントなどで構成されています。38 拠点・108 組が参加し、8 人の大学生インターンが創造都市活動について学びました。各種メディアで取り上げられるなど、回を重ねてきたことでその取り組みが認知・評価されてきました。

日程：10 月 17（金）～19 日（土）
事業内容：　①オープンスタジオ　　参加スタジオ数：38 拠点、108 組
　　②スタジオ見学ツアー　6 コース×2 回　計 12 コース
　　③デザインピッチ　　14 組のデザイナー、編集者等が参加
　　④ポートフォリオ展示　デザイナーポートフォリオを YCC1 階で展示
　　⑤参加スタジオ主宰イベント
料金　　：無料（一部有料）
入場者数：2,709 名

（４）ドックヤードガーデン活用事業（施設名：BUKATSUDO）

平成24年度から準備を進めたドックヤードガーデン活用事業が遂にオープンしました。平成 25 年度 2 月に当財団と三菱地所（株）とで賃貸借契約を結び、同月当財団と公募で選定された（株）リビタと転貸借契約を結び、その後オープンに向け仕込みをしてきました。

6 月 19 日にオープニングの記者会見及び、レセプションを開催。10 月 22 日にグランドオープンしました。大人のためのシェアプレイスをコンセプトに作られた施設は、みなとみらい地区で働く人々の心をつかみ、新たなコミュニティ拠点へと成長しています。

創造都市にとってもみなとみらい地区初の創造拠点の開設は、これまで関内、関外で培ってきた ACY のネットワーク、クリエーターの集積の成果を同地区へ繋げることになり、今後の発展に大いに期待しています。話題性はオープン当初より高く、マスメディアへの露出は多く、10 月にはグッドデザイン賞を受賞するなど、創造都市横浜のブランドを広く内外に発信するのに寄与しています。

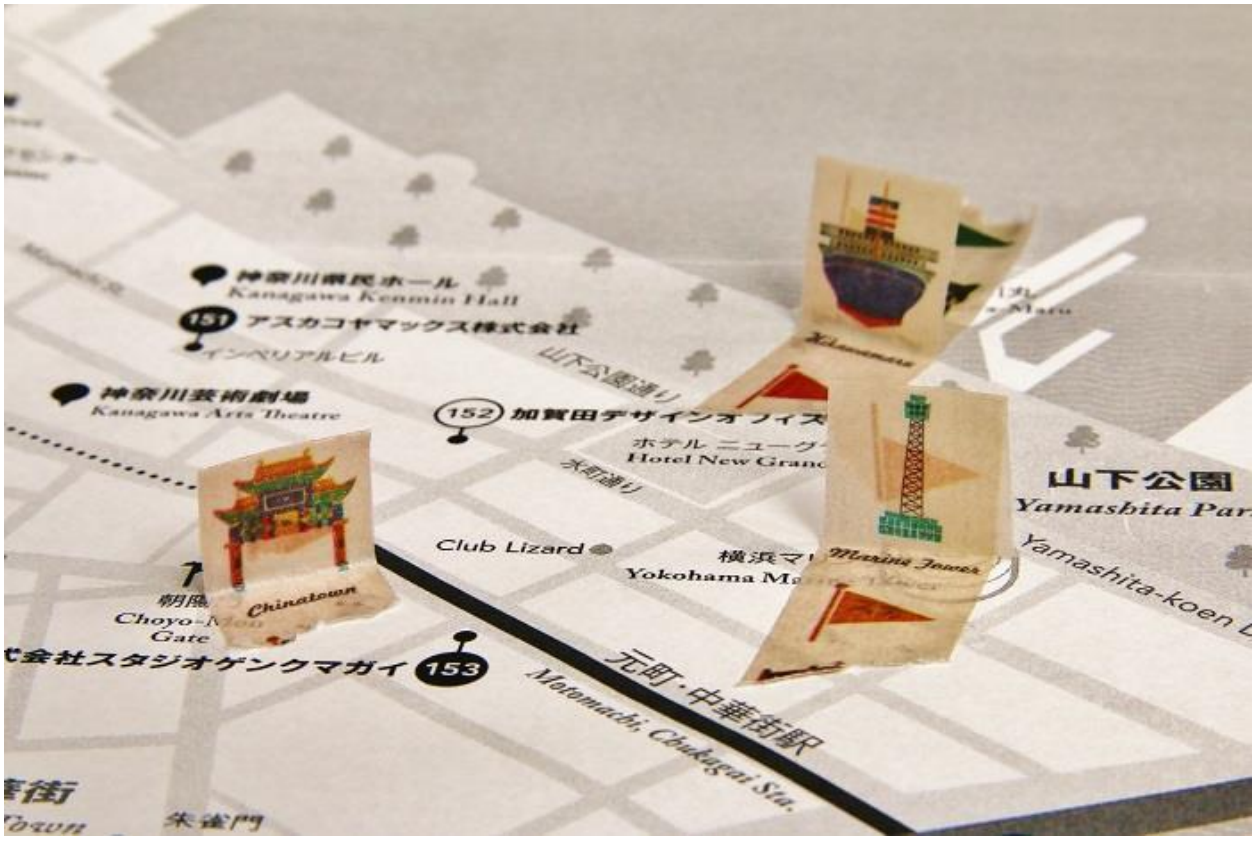
オープンした後は、ドックヤードガーデン活用事業運営協議会を通じて、参加 5 社（横浜市、三菱地所（株）、三菱地所プロパティマネジメント（株）、（株）リビタ、当財団）で情報共有を行っています。

〇2014 年 6 月　施設プレオープン
　・記者発表会、キックオフパーティー、未完成内覧会実施
　・プレオープン記念連続トーク『BUKATSUDO って何？』
　・始める人の講座「DO　SCHOOL」開始
〇2014 年 10 月　グランドオープン
　・グランドオープンイベント
　・BUSHITSU 第 1 期利用募集開始（6 区画/13 区画）
〇2014 年 10 月　グッドデザイン賞受賞
〇2014 年 11 月　「丸の内朝大学出張講座 in 横浜」開催し朝活提案
〇2015 年 1 月　BUSHITSU 第 1 期入居開始
〇2015 年 3 月　BUSHITSU 第 2 期募集開始（7 区画/13 区画）

■メディア掲載実績

テレビ	4
ラジオ	4
新聞・雑誌等紙メディア	36
WEB	326

4　デザイナー×地元企業　商品開発



平成 25 年度に開発した商品を横浜トリエンナーレにあわせて販売。マスメディアが取り上げ、大手小売店が取り扱うなど、メーカーも想定外の売行きでヒット商品を生み出しました。

＜発売日＞
7 月 18 日　ヨコハマドロップ、団扇　先行発売
8 月 1 日　マスキングテープ 2 種発売
8 月 10 日　横浜ナポリタン発売

＜販売数＞

ﾏｽｷﾝｸﾞﾃｰﾌﾟ　ﾖｺﾊﾏｰｸｽ Yokohamarks	集計中
ﾏｽｷﾝｸﾞﾃｰﾌﾟ　ﾖｺﾊﾏさんﾖｺﾊﾏｽﾀｲﾙの人々	集計中
ﾖｺﾊﾏﾄﾞﾛｯﾌﾟ　「KISS kiss」	集計中
横浜団扇「浜風」	集計中
横濱ﾅﾎﾟﾘﾀﾝ　ﾚﾄﾙﾄｿｰｽ 140g	集計中

＜販売場所＞
市内外約 20 か所程度（東急ハンズ横浜店、赤レンガデポ、横浜そごうほか）

5　創造都市プロモーション、広報

文化芸術創造都市･横浜の取り組みを、首都圏を中心に広く周知するため、横浜市都心部における諸活動を紹介するプロモーション活動を行う事業です。イベント等の催事のほか、創造都市政策のもとに横浜に集った人材やプロジェクトなど、日常的な営みをウェブサイト(SNS 含む)およびメディア向けプレスワークを通じて発信。下半期は、プレスワークの継続と、開設した新規ウェブサイト･SNS の運用を行いました。

（１）WEB マガジン『創造都市横浜』

昨年度から運用するメディア。Facebook、Twitter 等の SNS と連動し、取材･執筆を基本に｢読みもの｣として情報発信を行っています。

期間:2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
更新頻度:年間 43 回更新
掲載記事:60 本
SNS:ほぼ毎日更新
編集方針:アート、産業、まちづくりなど、広くクリエイティブな活動を取り上げる。イベント情報に限らず、日常的な取り組みや中長期的なプロジェクトなども読み物化しストーリー性を加えて紹介する。アートツーリズムの視点を加え、クリエイティブな視点で楽しんでもらえるよう横浜の街を紹介する。①特集、②ひと、③街、④モノ、⑤コト、⑥食べる、⑦おみやげ、⑧コラム、⑨注目イベント、⑩イベントレポートの10 カテゴリーを設け、記事を作成。

①アクセス数　（URL：yokohama-sozokaiwai.jp 内）

月	アクセス数	月	アクセス数
4	111,267	１０	269,108
5	175,071	１１	122,096
6	211,725	１２	102,028
7	147,785	1	190,489
8	155,213	2	95,858
9	131,467	3	91,209

合計　1,803,316　（前年度比 116%）

②Facebook いいね数推移

月	いいね数	月	いいね数
4 月初	10,208	10 月末	21,296
4 月末	10,223	11 月末	21,233
5 月末	10,409	12 月末	21,160
6 月末	10,883	1 月末	21,090
7 月末	11,235	2 月末	20,993
8 月末	11,402	3 月末	20,879
9 月末	14,724		

③Twitter フォロワー数推移

月	フォロワー数	月	フォロワー数
4 月頭	5,161	10 月	5,886
4 月末	5,262	11 月	5,990
5 月末	5,344	12 月	6,050
6 月末	5,430	1 月	6,165
7 月	5,520	2 月	6,300
8 月	5,623	3 月	6,367
9 月	5,735		

(2)プレスワーク

創造界隈のトピックについて、首都圏メディアを対象にプレスリリースやニュースレターを配信しました。東アジア文化都市にあわせて、創造界隈拠点の担当者を招きメディアラウンドテーブルを行うなど、創造界隈の情報を積極的に発信しました。

期間：2014 年 6 月～2015 年 3 月
掲載数：395 件

(3)ヨコハマ創造界隈メールニュース

内容：創造都市横浜サイトの記事更新にあわせて配信。
配信数　3499

(4)馬車道駅改札前円柱ポスター掲示

内容：横浜高速鉄道株式会社の協力により馬車道駅から移動可能な創造都市のイベント告知。
期間：通年
これまでの開架数：14 イベント